

環境を考える旅に参加して

北海道札幌旭丘高等学校 一年 渡辺夏海

【1日目】

—国会議事堂訪問・小池環境大臣とのお話—

この日はまず、議員会館に行き吉川貴盛さんの息子さんで秘書でもある隆雅さんに国会議事堂を案内して頂きました。私は国会議事堂をこれまでに自分の目で見たことが無かったので、衆議院と参議院とが議事堂の中で左右対象になっていることや、壁にアンモナイトの化石があったことにとっても驚きました。そして一番感心したのは、天皇が通る廊下を見学していた時に説明された内容で、「天皇の影を踏むことは失礼にあたるので、影が出来ないように照明は全て上を向いている」ということでした。本当に細部まで気を配られた建物なのだと感じました。

その後議員会館へ戻り、吉川さんとお話をしました。吉川さんは「環境問題は人間の永遠のテーマ」だとお話してくださって、私達と環境問題は切っても切れないのだと改めて実感しました。そして、竹下亘さんともお話をさせて頂き、小池百合子環境大臣にお会いしました。小池大臣はお忙しい中私達の話にしっかりと耳を傾けてくださって、「水の無駄遣いを減らすことがCO₂を減らすことになるのは何故ですか。」と質問をすると、「家庭の水道に水が届くためには多くのエネルギーを消費するからですよ。」と丁寧に説明して下さいました。さらに、「環境に関わる職業でこれから必要になる職業はどんなものですか。」と質問をしたところ、「様々な職業がありますが、広い視野だけではなく、どこかに焦点を絞って環境を考えることも必要になってくるのです。」と答えて下さいました。

—高野倫行さんの夕食—

夜は高野倫行さんとお食事をしました。高野さんとの楽しいお話と食事を通して、“食べ物を粗末にしないこと”もゴミを減らすことに繋がるのだと改めて気付きました。1回1回の食事からも環境を考えることができる、私達が行う小さな行動の1つ1つが環境問題に大きく関与しているのということを体感することができた1日となりました。

【2日目】

—海上の森訪問—

2日目はまず愛知万博の跡地へとリニアモーターカーを利用して向かいました。これは車輪がないため、揺れが無く快適でした。排気ガスを出さずに電気で走るリニモがたくさん増えて車を使う機会が少しでも減れば、大気汚染を食い止めることができるかもしれないと思いました。

海上の森につくと、思わず息をのんでしまいました。本当にきれいな森が一方にあるというのに、もう一方ではショベルカーやトラックが休む間もなく働いている現状がそこにあったからです。おそらく昔は美しい森であったであろう場所は、住宅地が変わっていかうとしていました。何故この場所を森ではなく住宅地にしてしまわなければならないのか、私には理解することができませんでした。そして工事現場にあった看板に“愛知万博博覧会協会”と書かれているのを見つけ、万博をひらいた側が工事を行

っていることを知りました。自然の叡智は一体どこへ行ってしまったのだろう、本当にこれでいいのだろうかと疑問に思いました。

その後近くにあるトヨタ博物館へ向かい、エコカーや炭で走る昔の車などを見ることができました。ここを見学する以前の車のイメージは、便利だけれど排気ガスを出して大気を汚してしまうというものでしたが、車を作る側も排気ガスを減らす工夫をして環境問題に取り組んでいるのだとわかりました。

—ホテルで見つけたグリーンコイン—

この日のホテルには、“グリーンコイン”というものが設置されていました。歯ブラシ等のアメニティを宿泊客が全く使わなかった場合に、フロントにこのグリーンコインを持っていくと、その枚数に応じて「子供の森計画」のために募金をするのだそうです。アメニティを使わなかった場合は持ち帰ってしまうことが多かった私は、大きなショックを受けました。アメニティを使わないことでも環境を守ることが出来るなんて思いもしなかったからです。これは身近なところから環境を守ることを目的としていて、本当にいいことだと思いました。全国のホテルでもっと実行してくれるといいなあと思っています。

【3日目】

—長良川河口堰見学—

川を管理するためのこんなに大きな施設を見学したのは初めての体験でした。この施設は主に海水が川を逆流したり地面に染み込んだりして起こる塩害を防ぐためのものです。また、水門をつくったことによって魚が川をのぼることができなくなならないように、時間差で開く魚道が作られ、野鳥が休憩に利用したり、小さな生き物達が多く棲みつく人口干潟などの多くの工夫もされていました。でも、干潟やせせらぎは作られているけれど、川の大きさ・長さに対して少ないと感じました。また、魚道の見学もさせてもらったのですが、魚が魚道を利用しているところはみられませんでした。広い川の両脇に申し訳程度に作られた魚道を本当に魚が通っていくのか、上流と下流を区切ったことで生態系や水質に変化はでないのか等、この場所の見学ではいくつか気になる点が残ってしまいました。理論上は魚道があれば、魚が上流と下流を行き来する道はあるので、問題は解決なのかもしれません。しかし、川の真ん中は行き来できないですし、時間差で開閉する魚道の仕組みを理解できない魚にその魚道を利用させることは、とても難しいことなのではないかと思えます。魚が上手く川を上ることができなければ、上流の生き物にも支障が出てしまい、悪循環が起きてしまうのではないかと心配になってしまいました。でも河口堰がなければ洪水や塩害の被害が出てしまいます。川の生態系と住民の生活の両者を守ることの難しさを感じました。

私は将来、何か環境に関わる仕事がしたいと考えています。そんな私にとって、今回の環境を考える旅に参加させていただいたことは本当に大きな収穫となりました。小池大臣を始め多くの方々とお話をし、環境に関する様々な施設を見学しながら、将来自分は環境に関わる何がしたいのかを常に考えていました。が、まだその答えははっきりと出すことが出来ていません。しかし、環境問題をはじめ何かの問題について考えるときは、視野をあまり広げすぎずに、自分が今から出来る小さなことでも確実にコツコツと続けていかなければならないこと、私達は私達がひき起こしている環境問題という大きな問題を決して忘れてはならないことを改めて実感することができました。本当に有意義な3日間をありがとうございました。